

## 岩手県立花巻清風支援学校 令和4年度 第2回学校運営協議会報告書

1 日 時 令和4年10月19日(水) 10:00~12:00

2 会 場 本校会議室

### 3 出席者

(1) 学校運営協議会委員出席13名 欠席2名

会 長 学識経験者  
副会長 北上地区、福祉関係者  
A委員 地域関係者  
C委員 遠野地区、福祉関係者  
D委員 NPO関係者  
E委員 企業関係者  
F委員 企業関係者  
G委員 行政関係者  
H委員 教育関係者  
I委員 教育関係者  
J委員 PTA関係者  
K委員 同窓会関係者  
校 長 本校職員

#### 【欠席】

B委員 地域関係者  
L委員 同窓会関係者

(2) 岩手県教育委員会事務局2名

学校教育室特別支援教育課長  
学校教育室特別支援教育担当指導主事

(3) 本校職員11名

### 4 内容

(1) 開会：副会長

(2) 校長あいさつ

- ・初めに9月27日付の岩手日報の前学校運営協議会委員の方からの投稿について話をする。
- ・6月の第1回学校運営協議会にて昨年度までの経緯について説明した。その上で今年度の本校の学校運営協議会については、岩手県中部圏域唯一の特別支援学校として、本校に学ぶ児童生徒がそれぞれの生まれ育った地域で自分らしく生活していくために必要な力を育むための教育活動について、各委員から提言をいただく場として今年度をスタートした。
- ・児童生徒の成長には、地域社会との関りが必要である。本校ではこれまでどおり自然な形で地域社会の方々と児童生徒との関りを持たせたいと考えている。本校所在地域の太田地区の方々をはじめ、本校に在籍する、あるいは卒業生が暮らす岩手中部圏域の関係者には、今後とも本校の教育活動に協力を賜り、いただいた提言等も踏まえながら、学校運営を行っていく所存である。

- ・また創立50周年記念を祝う会についても、第1回の会議で確認したとおり、新型コロナウイルス感染症拡大防止対応の形で現在実施準備をしている。
- ・これまで本校の教育活動に尽力いただいた方々には、大変失礼だが、別な機会にて感謝状の贈呈を行う予定で、現在個別に連絡し準備を進めているところである。改めて理解をお願いしたい。
- ・本日は今年度のこれまでの学校運営推進状況を寄宿舍や各分教室の取組も含め説明する。
- ・今年度のこれまでの半年間もコロナ禍での教育活動となったが、児童生徒の成長に必要と考えられる教育活動は感染対策を行いながら可能な範囲でそして可能な限りを念頭に展開してきている。
- ・その後の協議の場では、限られた時間ではあるが、特別支援学校に学ぶ児童生徒が、学校卒業後に地域社会の中で、自分らしく生活を送る姿を実現するために必要な教育活動の在り方等について様々な面から提言を賜りたいと考えている。

### (3) 会長あいさつ

- ・第1回の学校運営協議会での協力を感謝する。
- ・第1回目の運営協議会では、昨年度からの様々なことがあって意見をいただいた。コミュニティ・スクールは全国の動きであるが、良く分からない、前に進めないというところもあるようだ。
- ・1回目でも話したように、この会を通じて花巻清風支援学校がよりよく、子どもたちが生き生きと活動できるように進めていければよいのでは、分からないなりに前に進みながら、この会が役割を担えるようになっていければと思っている。
- ・今日も協議事項があるが、小学部からはいろいろなアイデアや知恵をいただければということも出されるようである。

### (4) 各分教室の紹介

- ・遠野分教室小中学部の紹介（遠野分教室担当副校長）
- ・北上分教室、北上みなみ分教室小中学部の紹介（北上、北上みなみ担当副校長）
- ・寄宿舍の紹介（寮務主任）

### (5) 前期の取組について（事務局）

### (6) 協議

#### 【校長】

- ・本校はじめ特別支援学校で学ぶ児童生徒の多くは、在籍中も卒業後も関係の方々から様々な支援をいただきながら地域社会の中で生活している。特別支援学校では、それぞれの生活地域から離れて通学する児童生徒も非常に多く在籍している。特別支援学校ではそのような面もあるので、在学中から児童生徒の生活圏の地域や学校所在地の地域の方々とのつながりが持てるようにこれまで学習機会を設定してきている。
- ・しかしながら、学校を取り巻く社会情勢、様々な制度などもものすごい速さで変化しているため、当事者の方々が暮らすそれぞれの地域において、自分らしく生活を送る時間の育成や、児童生徒が地域社会の一員であるという意識を育むための生活年齢や発達年齢に応

じた段階的な活動については、そのような変化に応じて学習内容を充実させていかなければならないと考えている。

- ・本日は特別支援学校に学ぶ児童生徒が学校を卒業した後の長い人生を、それぞれの地域社会の中で自分らしく生活を送る姿を実現するために、本校在籍中の学齢期において、我々支援者側そして当事者である児童生徒の視点に立って、必要な事柄について各委員から提言をいただき今後の学校における具体的な教育活動につなげていくための助言そしてヒントとさせていただきたい。

#### 【K委員】

- ・北上市で障がい児、障がい者の父親、有志が月に1回集まっている。先週の金曜日にも集まりがあり、どのように自分たちの子供と地域との関りを持たせるか、地域の中でどう生きていくのかが話題になった。
- ・自分の子は小学校までは特別支援学級に在籍し、中学校からは本校にお世話になって6年間地域を離れていた。小学校では当然子供会があるので、地域の子どもたちや親とも関りが持てるのだが、本校に来てしまうと地域との関りが無いということで、私自身が意識したことは、小学校卒業した後、地元の青年会に自分も入って出来るだけその行事と一緒に連れていく、率直に言って抵抗がないわけではなかったが、そうやっていかなければ6年間離れていた子がその地域で生きていくことはなかなか難しいのではないかと努めていた。
- ・そのような意味で学校にこれからやっていただきたいことは、他の地域からきている子供たちやその親に、ぜひ地域の中で子どもたちとの接点を作るように、地域には小学校の子どもたちや同じような年ごろの子どもたちもいるので、そういった関りを作ることを意識してやってほしいということを学校の中でも伝えてほしい。
- ・また私の長男は平成16年度から6年間寄宿舎にお世話になっていたが、当時は寄宿舎の定数は男子が24名、女子が16名と記憶している。先程の表を見ると定数を下回っているという状況だが、現在待機中の生徒や寄宿舎を希望しても入れない生徒はいるのか。

#### 【寮務主任】

- ・特に希望していて入れなかった児童生徒はいなかった。

#### 【会長】

- ・就労段階になって地域に戻るとなってもなかなか理解してもらえない状況があり、親の会がスタートし各地域で活動してきた経緯があったと思う。高等部段階になってしまうと子供会はないので、そこをどうつなぐか何かアイデアがあればお願いしたい。
- ・地域の祭があれば関われる場面もあるが、コロナで祭り自体が持てない状況である。中学校で中学生と地域との関わりはどうか、またその中に花巻清風支援学校の生徒と一緒に関われるような機会はあるか。

#### 【I委員】

- ・ここ2年間コロナの影響で行事が実施できていない実態だが、小中学校とも交流籍をはじめとして特別支援学校との交流は有益であると考えている。
- ・以前千厩中学校に在籍しており、一関清明支援学校の千厩分教室との関わりがあったが行事なども含め非常にスムーズに交流ができていた。中学校にとってマイナス面は何一つなくプラス面しかなかった。
- ・交流することで生徒たちの意識も高まり、教員よりも生徒会役員、生徒の方がスムーズに

交流できていた。今はコロナの影響でできないことが多かったが、何かあれば交流の機会を増やしていきたいと考えている。今度、西南地区の地教振の文化祭がある。従来はそこでも交流ができていたのではと思う。機会を増やしていければと思っている。

- ・千厩中学校時代には、分教室との関わりで学んだことについての生徒の感想などには、分教室の生徒と接したことによって「特別支援学校の教員になりたい」という希望を話している生徒や、病弱の子との交流を通じて「ドクターになりたい」といって実際そのような進路に向かっていく生徒もいた。機会があれば地域、学校間交流も含め積極的に行いたい。

#### 【会長】

- ・1ヶ月くらい前に国連から、特別支援教育は分離教育ではないかとの指摘を受けた。K委員からの話のように、実際に過ごす時間でみれば、地域の子供ではあるが、その存在が薄れてしまっている。おそらく今回の指摘を受けて、また変わってくる段階に入ってきたのではないか。今、I委員からあったように子供たちは小さいうちから関わると、違和感なく自然と受け入れ合えるのではないか。

#### 【A委員】

- ・分教室紹介の北上みなみ分教室のベンチ直しの取組が印象に残った。障がいといっても様々な事例があると思うが、発表の中で堂々とナレーションをしていた男の子、それから少したどたどしく話している子もいたが、印象に残ったのは、分教室の生徒が堂々とセミプロっぽい調子でナレーションをして、こんなに堂々と話せる子がいると印象に残った。
- ・太田地区の中でも、かあちゃん市やりんご狩り、貯水槽のペンキ塗りなどで関わっている人は、花巻清風支援学校にも多様な生徒がいることを感じていると思うが、一般の人は先ほどの動画のような場面を見ることはない。
- ・花巻清風支援学校には多様な生徒がいるといった紹介も含め、先ほどの動画やビデオみたいなもので地区の何かの会合や文化祭での展示などで、年に一回二回は学校紹介も兼ねて、地区の人に支援学校の様子などを出していただければ、一般の町民市民の理解が深まるのではないか。

#### 【校長】

- ・学校のやっていることの情報発信については、ホームページなども作ってやっている。しかしホームページなどを見ることのできる環境の方ばかりではないので、様々な方法で学校のやっていることを、太田地域の方々に対しても、広く児童生徒の暮らす岩手中部圏域に対しても、様々な場面でやっていく必要があり、そこから始まっていくこともあると思う。非常に貴重な意見をいただいたので、今後どのような方法で学校の活動について紹介していけるかを考えていきたい。

#### 【A委員】

- ・質問を兼ねて、地域社会とのつながりということで、高速道路の近くに大きな温室を建てて野菜、ベビーリーフなどを出荷しているPという事業所がある。そこに障がい者の方がかなり雇用されているという話を最近聞いて、太田にもそういう障がい者がそれぞれ能力に応じてできる仕事で雇用している事業所があることに気づいた。
- ・ここを卒業した後の生徒が、就労A型とかB型とか、どのような形で社会に関わっているか学校や教育委員会から紹介いただきたい。

#### 【高等部主事】

- ・本校の進路の状況について、昨年度の卒業生は4名の生徒が障がい者雇用枠を使った一般

就労をした。先ほどもA型B型とかの話が出たが、福祉サービスを使った進路に進む生徒がほとんどである。P事業所にも福祉の支援を受けながら雇用していただいていた。

#### 【県教育委員会指導主事】

- ・今話があったように、全県下で見ても、一般就労、就労継続A型B型、生活介護事業所、またそれぞれの生徒の特性に応じた進路ということである。
- ・県でも就労に向けた取組ということで、前半で話があった企業との連携協議会や、岩手就労サポーター制度で、就業体験や職場体験実習を行っていただける企業に対してサポーター登録を行っている。登録希望を県で集約し、希望された企業にはサポーター登録書を発行している。現在126企業が登録し、県内各地で実習を進めていただいている。
- ・中部県南地区では、12月6日に技能認定会というものを企画している。中部県南地区の花巻清風支援学校、前沢明峰支援学校、一関清明支援学校の高等部の生徒が集まり、清掃業務などを企業に見ていただき、普段の学校生活での取組について企業からアドバイスをいただいている。県としてはこのような就労に向けた取組を進めている。

#### 【会長】

- ・国が行っている助成金制度で、ある一定規模の企業は必ず障がいのある方々を雇用しなければならないといった法定雇用率がある。
- ・年々このパーセンテージが上がり、多くの障がい者を雇用しなければならなくなっている。一般の方々にも制度について知っていただきたい。
- ・サポーター制度は知事から登録書がもらえる。そういったものを会社のどこかに掲示していただいて、是非広げていただきたい。

#### 【F委員】

- ・企業の立場から話をしたい。今、企業の5割は人手不足となっており、北上の有効求人倍率は2倍を超えている。花巻でも1.56から1.58倍という状況である。5割の会社は人手不足で、北上の求人倍率が2倍ということは、一人の人間が働きたければ、2社から声がかかるという大変な状態である。
- ・それでは、就職したい人が働きたい会社に就職できるのかというと、そのようなことは起きていない。今、いろいろな制度が充実してくるから、障がいのある方の雇用も増えてくるという話があったが、それは少し現実的な話ではないかもしれない。
- ・現在、5割の企業は人手不足であるが、他の5割はどうしているかというと派遣や外国人で回しているということである。経営者は地域の人を雇って、地域の方に給料を払って経済を回すべきだと思っているので、これでいいはずだと思っていないと思う。仕方なくぎりぎり回している状況だということも共有してもらえればと思う。
- ・働き手側の価値観の変化もあるので、企業が人を雇う、人を教育するのが非常に大変になってきている。先ほど話したような環境だと、スタッフを管理する人もいない状況である。スタッフを管理する、教育する時間ももたない。管理職も手を動かさなければならない時代になってきている。人手不足なので様々な人を取りたいと思っているからこそ、障がいのある方の適材適所が合えば雇うべき、雇いたいとも思うが、紹介のあった講習会や情報交換会に行く余裕がないという現実がある。
- ・このような状況なので、障がい者の雇用を推進する機関や高等部の先生方は「こういう適性があるから、こういう働き方であれば企業でも活躍できると思うのでどうですか」など、どんどん情報発信をしてほしい。A型とかB型とか大抵の人は分からない。普通の業

務だけでも難しい時代に、そこまで勉強する時間もなくなってきたので、そういう情報発信をぐいぐいしてほしい。正直、皆さん経験あると思うが、説明会やったから講習会やったから人が集まる時代ではなくなったので、関係機関にはぐいぐい情報発信をしてほしい。場合によっては企業訪問して教えてほしい。もちろん企業も前向きでなければいけないが、企業には企業の現状があるのでそういった情報交流ができると具体的に雇用が進むのかなと思う。

#### 【会長】

- ・貴重なご意見をいただき感謝する。学校現場はどうしてもそのようなところに疎い面がある。それなりのサポートが必要である。学校の方でもその辺のところを認識していただければと思う。
- ・二つ目の実際の地域社会の中で、児童生徒が学びを深め、自己肯定感や有用感を高めるような教育活動について、小学部から、委員に情報をいただきたいということがあるようだ。

#### 【小学部主事】

- ・先程、前期の取組で紹介があったりんご狩りについて、小学部では毎年学校の向かいのりんご園でのりんご狩りを年2回行ってきた。来週2回目の予定であったが、今年は天候不良で2回目ができないことになった。もう一つ残念なことには、りんご園を管理している方の都合で、来年度以降はりんご狩りができないことになった。
- ・りんご狩りは、地域と協働する学習活動の中で、学校ではできない自然体験や、地域の方と触れ合いをとおして児童にとってもプラス面のところがあったが、それに代わる来年度からの違う活動が何かあったらと現在模索しているところである。
- ・まず、来年度は地域資源を活用したいと考えている。具体的には絵本の読み聞かせや音楽団体に来ていただくなど、花巻北上地域のそのような資源をぜひ活用したいと思っている。予算の関係で無償でということになるが、もし人形劇や絵本の読み聞かせなどの団体でいいところがあればぜひ教えてほしい。併せて、小学部でこういう活動ができるのではといったアイデアがあればいただいて検討したい。

#### 【会長】

- ・持ち帰って検討いただきたい。すぐにではなくても、何かあれば情報をいただきたい。
- ・中学部のかあちゃん市もなくなるようだが、中学部、高等部ではどうか。

#### 【中学部主事】

- ・中学部では長年JA太田地区婦人部の方とかあちゃん市ということで、野菜やジュースなどを持ってきていただいて、生徒たちが販売活動や買い物学習といった活動を一緒に行ってきた。婦人部の方もだんだん高齢になってきて、もう難しいという話をいただいていたが、今年度までは何とかお願いし続けることができた。来年度は、かあちゃん市は難しいが、今も取り組んでいる花植えや種芋の準備とかは、継続してできる方向で相談しているところである。
- ・種芋の切り方なども教えていただきながら取り組んでいる。収穫については、今後相談したり検討したりしたい。

#### 【高等部主事】

- ・地域関係では昨年度から道の駅で販売をさせていただいている。今回の資料にはないが、太田地区で盛んに取り組まれているクップの取り組みを今計画しているところである。これから太田地区の方にご指導いただきながらニュースポーツのクップを生徒に体験して

もらう活動を計画している。

【会長】

- ・最後に各委員から、学校への意見も含めて一言ずつお願いする。

【K委員】

- ・各分教室の活動を見て、普通学級との交流が進められていることが非常にうれしいことだと思ったので、引き続き進めていってほしい。

【J委員】

- ・今、私の息子は現場実習最終日ということでタイムリーな内容だったと思っている。今後のこともあるので、次回もよろしくお願ひしたい。

【I委員】

- ・分教室の紹介ビデオを見て感動した。遠野小学校、南小学校がうらやましいと思った。本校の教育活動に足りないところを気づかされた気がした。ビデオを見て、本校では地域のためやボランティア活動という視点が足りなかったと思った。
- ・またK委員から地域で何か特別支援学校に通う子どもの活動をという話について、私は北上の南小学区に住んでいるが、地域に花巻清風支援学校を卒業した息子の同級生がいて、どうしているかとたまに話題になる。高校になると難しいと思うが、中学校では夏休みと春にクリーン活動というものがあって、地域で中学生が参加して行う活動がある。そのときに中学部に在籍していても地域で声かけて参加してくれれば、中学校3年間は様子が分かるのではないかと思った。

【H委員】

- ・分教室でなくても近いところにあるので、可能な限りできることを模索していければと改めて思った。

【D委員】

- ・地域貢献の説明などを聞いて感銘を受けた。今日のテーマにもある自己有用感や自己肯定感、自己効力感、そういったものが高まる活動だと思って拝見した。
- ・話の中で就労関係の話がたくさん出てきたが、地域で自分らしく暮らす力を育むという意味では、就労の力というものがもちろん大事で、本人の人材育成の観点と、企業の理解の観点というのが大事だと思っている。
- ・放課後デイの立場で言えば、余暇をどう過ごすかということに今取り組んでいる。我々は買い物できる場所を増やすとか買い物のマナーを身につけるといふものに取り組んでいる。お店の人にこの子が来たらこう対応してもらおうということを知ってもらおうなどである。
- ・あるいは趣味、サークルの使い方も伸ばしていきたいと思う。人にもよるが公共交通機関の使い方、町中のトイレの使い方など、地域で暮らしていくときに自分でできることがどんどん増えていって、近くにいる人もその方をサポートできるということが広がれば、就労の観点と余暇の観点で地域に切り込んでいけるのではないかと思っている。共に頑張りたい。

【F委員】

- ・発表を聞いて、地域とつながってきたこと、先生たちが継続してきたものがあり、それぞれの分教室、本校で文化があると勉強になった。子どもたちも多様だと思うので、これは守られなければならないのだろうなと感銘を受けた。
- ・就労の件で厳しい意見を言ったが、どこまでもマッチングだと思う。企業としては人手不

足で何とか事業を回したいという経営者はいっぱいいる。ただ企業側も臆病になっていると思ってもらえればと思う。その守りの部分を突破しなければ、また突破してあげてほしい。

#### 【E委員】

- ・私が普段、障がいのある方に関わる場面は、特別支援学校を卒業して一旦就労された方々が入院など何らかの理由でやめられて 再びそういった方が社会に戻る際に後見人として関与することが圧倒的に多い。おそらく最初の就職の時は、学校の先生方がその方の特性などを企業に伝えたり、入所される施設の方に伝えたりしていたと思うが、一回そういった場所を離れて再び関与するときは、どこの学校出身かが分かればいい方で、全く情報がないことがほとんどである。そういった時は親御さんも亡くなられているケースが多く、意思表示ができない方ですと、本当にその方が何が好きかも分からない状態で、地域生活に戻すためにどういったグループホームに入るのか、どういった就労を利用するかも検討しなければならず、特別支援学校で先生方が関わっていたことが何か記録として残るシステムがあれば、将来的な地域生活、どういった地域生活を送るかという場所を検討する際に非常に役に立つのではないかと。
- ・課外活動の件では、我々司法書士会で就職直前の高校3年生に対して、「お金は借りすぎるな」、「変なものにはんこを押すな」など、出前講座を普段行っている。それをリニューアルすることで、もしかしたらこちらの高校3年生の何かお役に立てることがあるか、今後司法書士会で検討したい。

#### 【G委員】

- ・行政の立場から話をすると、我々の役目としては福祉サービスの確保、市民の方々への障がいに対する理解の促進と考えている。幸い花巻市内における障がい福祉サービス事業所の数は、かなり右肩上がりに増えている。就労支援事業所についても増えているし、中でもグループホームはかなり増えているので、様々な障がいの方それぞれにあった選択肢が広がってきているのではないかと。社会の中で自立していくための資源が整備されているので、市としては、そのような事業所が運営しやすいようにサポートしていきたいと思う。本当に個人それぞれに合った支援をしていきたいと思っているので、今後ともよろしくお願ひしたい。

#### 【C委員】

- ・今日の話聞いて課題に気づかされた内容であった。特にベンチを直したのはすごく良い活動だと思っている。普通に考えればベンチは市の建物、市有地で建設課の担当だと思う。その建設課の中では、これを花巻清風支援学校に任せようかという発想はないと思う。その発想を市役所も我々もそうだが、いつでも花巻清風支援学校にできるのではないかとこの発想を持った取組を普段していかないと難しいということ課題として今回思った。
- ・外で活動することによって他の人達に見える活動が広がっていき、障がいの理解がどんどん広がっていくと思う。我々福祉サイドの人間だけが理解しているのではなく、一般の方にどう理解をしてもらうかが大事であり、そこが一番難しい。その機会を作るのもなかなか難しい環境になってきているので、そこをどのようにして一般の方々に対して理解を進めていくかということが地域で生活する中で一番大事になってくると思っている。
- ・もう一点、小学校、中学校ではPTAの地区行事などがあり、そこは学校単位で動いており難しいと思うが、地区単位の活動である地区の子供会との関係がなかったと感じた。同



じ地区に住む子供として交流させる機会もやはり必要だろうと思ったので、関係者に話を  
して何とか交流できるように持って行きたいと思っていた。今回の会議は気付かされる場  
面が多かった。

#### 【A委員】

- ・最近印象に残ったニュースで高校生や大学生の採用試験のエントリーシート、志願書に写  
真を添付しなくていい、不要であるという企業が増えてきたというニュースがここ何日か  
流れていた。性別のところも今は男女どちらかに丸を付けるような性別の記載もいらない、  
顔写真も不要、顔写真があるといろいろな先入観が入るからやめたという企業が多いよ  
うである。今日、分教室の小学部中学部のそれぞれの交流のビデオを見て感激した。分ける  
のではなく分け隔てなくいろいろな人がいていいということをもさにそういう場面で気  
付いていくという面でいい取組だと思ったので、どんどんやっていってほしい。先ほども  
言ったがビデオの男の子、こんなに堂々と話す生徒がいると今でも印象に残っている。
- ・この場で申し上げてよいのか迷ったが、最初に校長先生から話があった岩手日報の投稿の  
件だが、あの投稿の内容は地元にいるとインパクトが大きくて、大半は何があったかあれ  
を読んでも分からない、一般の人は、何があったんだろう、何したんだろう、何か問題を  
起こしたのか等、何人かに聞かれたが、昨年4月に委員になって、その後途中でストッ  
プしてしまったので詳しくは説明しなかった。
- ・今回残念だったのは、交流していたりんご園の方も前委員だった。クップはやる予定と聞  
いたが、クップを一生懸命やっていた前会長も委員を辞めている。かあちゃん市は直接委  
員になっている人はいないが、ああいうことがきっかけになって、皆一步後ろに下がった  
ような、正直そういう印象を受けた。私は今日りんご園との交流をやめる話を初めて聞い  
た。かあちゃん市も無理だ。クップはやろうと考えている。そのような話だったが、推測  
だが影響があるのかと残念に感じた。
- ・学校には引き続き協力していくので、いろいろな、こんなことをできないかなという話が  
あれば、遠慮することなく申し出てほしい。また去年の経緯もあったが、クップもやる、  
貯水槽もやったし、道の駅の販売もやったし、展示会もやった、文化祭も出品した。地域  
との関わりは従来どおり変わりなくやっているという方がいいと思う。あれもやめた、こ  
れもやめた、地域とのあれがなくなった、やっぱりあの新聞に書いてあったことが原因な  
のかという見方をする人もいるので、なるべく従来やっていたことは、学校の方も事情が  
あるとは思いますが、応援できることは応援するので、間も取り持ちたいと思うので、ぜひ続  
けていってほしい。

#### 【副会長】

- ・今日の学校紹介ではH委員と、はまったところが一緒だった。「遠小のみんなのために掃除  
しよう。」「遠小の児童は、皆さんが石を拾ってくれて走りやすかったよ。」これは承認欲  
求を全て満たしているのではないかというところで本当にはまってしまった。
- ・私も少し前は相談員をしていて親御さんから相談されることが度々あった。何の相談かと  
いうと「グループホームに入れてもいいだろうか、ずっとこのまま家で自分の子を見た方  
がいいような気もするが」という相談が何件かあった。そういうときには親御さんに「で  
は息子さんが20歳になったときにはお母さんは何歳、息子さんが30歳になったときは  
お母さんは何歳、40歳になったときはお母さんはもう60歳を過ぎているな」、「ではど  
のタイミングで、お母さんは息子さんと親離れ子離れできますか」という話をしている。

そして「早いうちから息子さんに新しい生活を考えた方がいいのではないか」、「息子さんもまだ固まりすぎて新しいサービスを使いづらい状況になるよりは、まだまだ若いうちからグループホームなどを使ったらいいのではないか」という話をする事があった。

- ・先ほど冒頭でK委員が息子さんを地域でということ、一生懸命活動されているという話があった。違った視点で提案すると、学校は卒業させるとアフターフォローもするが、いつまでも継続することは難しい。学校側は生徒が在籍している間に何が出来るかという親の教育だと思われる。親が自分の子どもにどんなライフ、生活、人生を送ってほしいのか常に考えられるよう、親が40歳になったときに子どもがこんな状況になっているといいなといった話を、何かの機会や勉強会等で実施すると、いつまでも親は子どもの応援団長として、フォローすることができるのではないか。子どもの幸せをずっと願いつける親を育てるということを学校に期待して話を終わる。

#### 【会長】

- ・大変貴重な意見を各委員からいただいた。ぜひ出されたことをこれからの教育活動に生かしてほしい。
- ・最後に、ある雑誌の投稿の中に、どうしても日本人は同じ意見にまとめてしまいたい、学級会などでも、それぞれ意見は言うが、先生方は一つの意見にまとめて「このクラスまとまったね、よかったね」となる。実は世界はそうではなくて、それぞれがそれぞれの意見をもって話をするをお互いに認め合うことによって初めて話し合いが成立する。決して同じ意見に集約することがいい方向ではない。まさに今これからそこが大事になっていくのであろう。まさにみんな違ってみんないい。特に分教室の子供たちは、併設校の子どもたちとみんな一緒にいるので、多様な子がいるのが当たり前の環境、違いをみんなが認め合っている。そうすると何がいいかというと、子どもたちが一番生きやすい。子供たちが生きやすいということは将来が非常に明るいものとなる。今日は各委員から貴重な意見をいただいた。次回もよろしくお願ひしたい。

#### 【校長】

- ・本日は本当に貴重な意見をいただき感謝する。いただいた意見にいかにか肉付けし、子供たちに還元していくかは学校の仕事である。取り組んでいく中でいろいろ相談していくので、今後ともよろしくお願ひしたい。

#### (7) 諸連絡

- ・第3回の学校運営協議会は令和5年2月22日(水)開催で計画している。
- ・内容は学校関係者評価、次年度の学校経営についてである。
- ・第1回学校運営協議会の報告をホームページで公表する準備を進めている。準備が整ったら委員の皆さんに一度確認していただきたいので送付しますので、よろしくお願ひします。ホームページに公表するときは氏名は掲載しないで、A委員、B委員のアルファベット表記となる。

#### (8) 閉会：副会長